



ツバメ科の鳥は、翼は長くて先がとがり、尾は二つに分かれているものが多い。足は短くて弱く、空中生活に適した形をして、嘴は小さいが基部は幅広く、大きく開きます。飛びながら小さな昆虫を捕え、反転飛翔も行います。人家や建造物に土で巣を作る種が多く、世界中で約75種が分布しています。日本では夏鳥として5種が渡来し、いずれも繁殖しています。

酒沼下流域の7ヘクタールに及ぶ砂並と呼ばれるヨシ原の草原は、イワツバメも他のツバメ類に交じってお宿として見られます。また、9月中旬頃、北国生まれのシヨウドウツバメ約500羽の群れが駒場周辺の電線にとまっていたの姿が見られました。渡りの途中だったのでしょう。

里山に育む生きものたち

40 イワツバメ (スズメ目 ツバメ科)

学名 Delichon urbica
英名 House Martin

文 / 山口 萬壽美

▼主な特徴

全長約14・5cm。ツバメより小さくて翼も尾も短い。頭頂、背、翼、尾は光沢がある黒色。腰は白く、上尾筒は黒褐色で、尾は三味線のバチのような浅い凹尾。飛翔しながらジュリリ、ジュリリ、ピリと鳴きます。

▼分布

北部、南部を除くユーラシア、アフリカ北部で繁殖します。冬期はサハラ以南のアフリカ、インド、中国南部、東南アジアに渡ります。日本には、夏鳥として九州以北に渡来します。暖地で越冬する個体もいます。

▼生息場所

平地から高山帯の開けた場所にある、

建造物の軒下などに集団で営巣し、数十個の巣が接して並ぶこともあります。高山の絶壁、海岸の洞窟などにも営巣します。

近辺では、大洗や那珂湊など、海岸で数十羽が群れをなし昆虫類を採餌している光景が見られることもあります。また、駅内や学校、河川の橋桁等で集団営巣していることもあります。

▼観察メモ

今年6月下旬、水戸市芸術祭で、奥日光でのバードウォッチングが開催されました。茨城町の自然観察クラブ会員10名と私も参加し、温泉街にあるコンクリート造りの旅館の軒下などに、集団で繁殖しているイワツバメの行動を観察しました。早朝、湯の湖に行ってみると、イワツバメたちは速く軽快に飛び、滑翔や旋回をしながら、昆虫等を捕まえていました。この観察をされたみなさんは、大変満足していたようです。



編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年6月末現在)
◆総人口 33,742人 (-54)、男 16,884人 (-31)、女 16,858人 (-23) ◆世帯数 12,802世帯 (-5)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています